



—令和6年1月25日（木）15:00～16:40 音楽・文化交流館 大ホール—

【実践発表】 多田野幼稚園

「円滑な接続を見通したアプローチカリキュラムの実践」「就学に向けた幼保と小の情報共有について」



多田野幼稚園は「郡山市で一番小さい幼稚園」、大自然に囲まれた豊かな環境で45名の園児一人ひとりが個性を發揮し、職員とともにのびのびと過ごしています。

実践発表では、「一斉活動」と「自由遊び」のメリット、デメリットを挙げて考察しました。例えば「一斉活動」は皆で同じ経験ができて様々なことを学べるが、苦手なことも行う等、が挙げられました。園ではバランスよく実施しており、それぞれの良さを引き出しています。そのうえで、園の活動を見ながら、会場の皆さんと一緒に「10の姿」を分析しました。捉え方によって様々な姿が見られることがわかりました。

また、児童が石を拾って遊んでいたら、やがて、かまど作りや火おこしへと発展した実践も紹介され、ほぼ1年にわたる貴重な経験をお聞きしました。学んだことはすべてが生きる力となり、力強さを実感しました。なにより、園長先生はじめ先生方の子どもと向き合う姿勢に感銘を受けました。

【協議会】 グループ協議で発表に対する感想・意見交換が行われました。



☆ 多田野幼稚園の発表について

- 子どもたちの思いを汲み取り、先生方も一緒に努力しながら楽しんで活動している姿が感じられました。主体的活動を展開していくことで「10の姿」がたくさん育まれていることを学びました。
- 他の保育園から転園されるケースが多いようですが、転出先から保育経過記録を受け取り、状況を把握したうえで、一人ひとりを丁寧に受け入れていると感じました。

☆ テーマ「円滑な接続を見通したアプローチカリキュラムの実践」  
「就学に向けた幼保と小の情報共有について」

- 幼稚園、保育所と小学校が互いにアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを見せて、一緒に検討していくことが、今後求められている連携であると考えます。
- 就学に向けて「読み書き」を教えがちなようになりますが、幼児期の段階では環境を設定して、絵本の読み聞かせや遊びの中から、文字に対する興味関心を持たせることが大事だと思います。

《参加者からのアンケートから》

- 幼児期の遊びは、育っていくうえでとても重要であることを再認識しました。学んだことを是非活かしたいと思います。（その他：参加者）
- 入学した子どもたちが安心して学校生活を送れるように、幼稚園、保育園の先生方の思いを大切に、繋いでいきたいと感じました。（小学校：参加者）

「協議会だより」は総合教育支援センターのウェブサイトにも掲載いたします。